



鹿児島県立鹿屋高等学校
PTA広報誌 第83号



鹿屋高校へアクセス!

発行日 令和元年12月24日
発行 県立鹿屋高等学校PTA
発行責任者 PTA会長 桑原 克幸
編集責任者 広報部長 瀬戸山里美
題字 畑中 日向(2年6組)

- 1 面：センター試験出願式
- 2・3 面：PTA活動報告
- 4・5 面：三星祭 (体育祭)
- 6・7 面：三星祭 (文化祭)
- 8 面：進路座談会・行事予定・編集後記



センター試験出願式 生徒決意表明



9月27日(金)、大学入試センター試験を出願するにあたり、代表生徒による決意表明と職員からの激励の講話が行われました。

「積み上げた努力は自信へと変わり、力になる」



3年1組 井手 優花

これは、私が12年間の水泳人生を通して学んだことです。

この夏、私は水泳の九州大会出場を果たしました。しかし、中学校時代までの私は、極度の緊張であまり良い結果を残すことが出来ませんでした。そんな私が九州大会へ出場できたのは、高校に入り、一つ一つの練習の意味を考え、本番を意識して練習し、水泳だけでなく全てのことで努力を続けるようになったからです。これは自分にとって決して簡単なことではありませんでした。「眠気に負けそうな自分」を抜きたい自分、色んな自分と戦う毎日でした。しかし、大変だったからこそ、積み重ねた努力に対する想いが本番での緊張に勝るほどの自分への自信となつて、大舞台で力を出し切ることが出来たのです。

今、私の前にある次の大舞台は「センター試験」です。現在は一つ一つの勉強に目的をもって取り組み、本番を想定して時間を決め、集中して毎日の勉強に励んでいます。ちょっとした隙間時間も無駄にすることの無い

よう、参考書片手に勉強する日々です。

しかし、模試やテストの度に返ってくる結果や順位、志望校判定に一喜一憂する日々の繰り返しで「このままセンター試験を迎え、全国のライバルと戦うことが出来るのか?」「本気で挑んでいる浪人生をはじめとするライバル達には、自分は立ち向かっていけるのか?」と、不安に感じることが多々あります。そして不思議なことに、受験勉強すればするほど「自分が足りない自分」を発見し、自分の実力に対してさらに不安も増えていきます。

しかし、私たちにとってセンター試験は、全国のライバルと戦う初めての試験であり、また今まで私たちが経験してきた中で一番の大舞台です。だからこそ、緊張するのも当然です。もしも不安に押しつぶされ、立ち止まってしまったら、結果は出ないことはもちろん、絶対に一生後悔すると思います。

「本番までに最大限の努力を重ねることで、その緊張を上回る自信を得ることが出来る」

113日後の自分が、ボロボロになった単語帳やミニノートを手にも「やれることを最大限にやってあれだけ努力したから絶対受かる!」と自信に変えることができるくらいに努力を積み重ねて臨みたいのです。

72期生全員で挑む高校生活最後の大会。全員にとって悔いのないものにするために全員で頑張っていきたいと思います。



3年6組 松崎 斗磨

受験の天王山といわれる夏。皆さんにとってどのような夏でしたか。一人ひとり、それぞれの進路目標に向けて頑張ったことでしょうか。自分の立てた計画、またはそれ以上の学習ができた人もいる一方で、思い通りにいかなかった人もいるかもしれません。私はどちらかというと後者です。

チャレンジ160に参加し、始めは1日10時間の学習を長く感じていましたが、後半は毎日が急速に流れ、学習時間と自分に蓄積されていく知識量に正の相関関係が感じられず、不安が日に日に大きくなりました。計画は立てたものの、6割程度しか達成することができませんでした。

自分のため、将来のために、勉強をしているなかで、つらい時期や今の努力は実なのかと不安に感じることもあると思います。私は高校生活の中で、文化祭実行委員長や部活動のキャプテン、応援団などを経験し、多くのことを学びました。昨年の文化祭では、5月か

ら準備を始め、当日も進行がうまくいくかと気を張っており、楽しいというよりも、正直、きつかったという印象が強いです。部活動でも、試合を想定した練習を、部員と意見を交わし組み立てていく中では、悩むことも多くありました。それでも、多くの人の助けを受けながら、ただひたすらに行事の成功や部活動の目標達成に向けて必死になつて取り組んだ結果、いずれも終わったときには達成感や充実感がありました。皆さんにも、同じような経験があると思います。

受験でも、先の見えない不安や尽きない悩みを少しでも払拭するには、ひたすら自分の目標に向かって勉強するしかないと思います。最終的に自分の目標とするところに手が届くかどうか分かりませんが、やらなければ、結果はでません、できる限りのことはすべてやったらと、自信を持って臨みたいのです。そして、目標達成のためには、多くの場面で支え合った仲間への存在は大きく、受験でも同じことが言えると思います。試験を受ける時は一人ひとりですが、切磋琢磨し、勉強のしやすい環境を創ることは、互いの協力が必要で、受験は団体戦とも言われるように、72期生全員で合格を勝ち取りましょう。

PTA活動報告



2学年PTA

2学年委員長 福永 浩文

10月18日(金)、2学年PTAが開催されました。修学旅行計画の説明の後、河合塾の柳田さんを講師に迎え、進路講演会が行われました。演題は「これからの入試を切り拓く4つのキーワード」(Why)(How)(Be)(Do)と表し、2021年度から変わる「大学入学者選抜改革の状況」と「これからの入試に向かうには」について講演されました。

流石、塾講師ならではのテンポと話術で、受験に臨む心構えや取り組みについて話され、特に「Be」何になりたいか、目標を明確にすることが重要と述べられました。



1学年PTA

1学年委員長 加連川 陽一

10月25日(金)、1学年の学年PTAが開催されました。私の最初最後の仕事でしたが、松田先生や村瀬先生、大菌先生が全部進行してくださり助かりました。学年PTAでは、どの家庭も同じ問題を抱えているスマートフォンでの取り扱いについての講話があり勉強になりました。使い方によっては、相手を傷つけたり、グループ内での会話から抜けられなかったり、あるいは知らない間に自分の情報が世の中に拡散されているなどの説明があり、便利な道具である反面、危険も伴う道具でもあると痛感させられました。保護者の皆さん(私も含め)、スマートフォンのお金は親が払っているという上から目線ではなく、

どうやったら自分の子どもが安全に使用できるか、身を守るか家族で話し合ってみましょう。修学旅行については、「子どもたちには修学旅行を思いっきり楽しんでもらい、その後は、勉強をもっと頑張ってもらおう」意味でも、気持ちよく送り出しましょう。そして、文理選択についてですが、親も一緒に考える必要があると説明がありました。「何々の教科が苦手だから」を理由に文系や理系を選択したら、後悔する可能性があるそうです。最終的には、子どもが決めることですが、決断までは親も一緒に悩み、話し合いましょ。最後に、親は子どもにとって最高の応援団で理解者です。まさに



One Teamで子どもの進路について最大のサポートをしましょう。先生方には、これからもご迷惑をおかけすると思いますが、あつという間にすぎる3年間のサポートをよろしくお願いいたします。

PTA研修視察

PTA研修部副部長 本田 晴花

10月3日(木)、PTA研修視察で志學館大学と鹿児島大学へ行ってきました。

志學館大学は人間関係学と法学の2つの分野で実践的な知識を学ぶことが出来ます。小規模大学ならではの特徴を生かして、学生一人ひとりに寄り添った指導で資格取得、就職支援に力を入れていると感じました。

次に鹿児島大学は9つの学部から成り、学生の関心に応じて他学部の授業も積極的に受講できる等、幅広い分野で学ぶことが出来ます。

また、鹿屋高校卒業の学生が大学生生活の現状や、受験に向けての心構えなど、貴重な話をしてくれました。これから家庭でも参考にしたいと思いました。朝から夕方までの日程でしたが、マリネットかごしまに寄港していた豪華客船を見学したり、昼食を鹿児島大学の学食でいただいたりと、とても充実した1日になりました。来年度も是非、多くの保護者の皆様に参加していただきたいと思ひます。



PTAミニバレーボール大会開催

PTA厚生保健部長 東 幸一郎

恒例のミニバレーボール大会が、真剣な中にも和気藹々で行われました。

今年も先生、保護者の多くの方々に参加いただいたり、一部トラブルもありましたが、概ね盛況だったと思っております。

個人的にも、長年会員相互の交流等で親として、人としてのスキルを上げる行事に携わってきました。人と人との付き合いが希薄になってきた感のある時代になってきましたが、機器だけでは無く自分自身の感覚でふれあつてこそ見えてくることも大事だと思ひます。PTA活動最後の年度となり、名残惜しい気もしますが、これからの会員皆様の御精進、御発展を祈念申し上げます。ありがとうございます。



準優勝 3年2組



優勝 2年2組



第69回全国高等学校PTA連合会大会「京都大会」報告

PTA副会長 上福 隆弘

第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会が、令和元年8月22日〜23日の両日にわたって開催され、鹿児島高校からは私と有村先生で参加しました。22日は分科会が開催され、第4分科会「高校生と人間関係について考える」に参加しました。佛教大学の原清治教授の基調講演があり、最近の大学生や高校生の傾向などについて話がありました。その後のパネルディスカッションでは、今春高校を卒業した5人の大学生と原教授とのやり取りがあり、学生からは親に対して、「進路についてもっと親身に聴いて欲しかった」、「自分の話しても親は興味がないのではないか」、「だから話をしたくない」といった意見が出されました。高校生になると友達との関係が深まり、自立も見られ、親子の距離が広がりますが、親から積極的にコミュニケーションを図り、子どもと一緒に視線で会話をすることを実は子どもたちは待っているのではないかと感じました。

23日は全体会がありました。日本電産㈱代表取締役会長の永守重信先生の記念講演では、「学校教育・家庭教育に思うこと」という演題でした。「大学入試には正解があるが、社会には正解はない、どうやって解いていくか、その手法を中学・高校時代に学ばせて欲しい、そして英語はこれからのグローバル化社会には必要であり、学校でも文法だけ教えるのではなく、英語がしゃべれるような授業を目指して欲しい」とおっしゃったのが印象的でした。その後前日の分科会報告、閉会式とあり京都大会の幕を閉じました。たいへん充実した2日間であり、貴重な体験が出来ました。





三星祭

Seize the moment!!

その瞬間をつかみとれ

生徒会長 2年2組 福島 茜音

今回の三星祭は「Seize the moment!!～その瞬間をつかみとれ～」のテーマのもと開催されました。体育祭は雨天のため翌日に順延となりましたが、みんなあたたかその日が元々本番の日だったかのように、全力で競い合い、応援しました。序盤から黄団の3年生がリードし、1・2年生が追いかける展開となりました。しかし、3年生の意地とプライドで優勝を勝ち取りました。文化祭はバザー、展示、ステージのどの部門も素晴らしく、全て楽しむことができました。ダンスやヲタ芸などの幕間もとても盛り上がりしました。文化祭実行委員は夏休みから準備に取りかかり、当日までもとても大変でしたが、やりきってくれたおかげでスムーズにかつ盛大に文化祭を終えることができました。勉強だけではなく、行事にも全力で取り組む三星健児のかっこいい姿をみせることができたこの三星祭は、大成功で幕を閉じました。

9月8日(日) 体育祭

校内警備ありがとうございました!

体育祭警備 2-1 前田さん 2-6 玉利さん 3-4 尾崎さん 3-6 井戸さん



3年応援団長 3年5組 今藤 康平

私は3年間、72期生の応援団長を務めさせていただきました。1年生の頃は慣れないことが多く、さらに団員が40人近くいたため、団をまとめることに苦労しました。当時の先輩方には歯が立たず、悔しい思いをしました。2年生の頃は団員が20人近く減って悲しかったですが、人数が減った分一人ひとりが考えて行動するようになり、1年の時よりもまとまった団になりました。しかし、3年生に僅差で負けてしまい、優勝を逃してしまいました。悔しさを乗り越えて迎えた3度目の体育祭。憧れられる3年生になれるように後輩が分からないことは教え、体育祭が盛り上がるよう努力しました。部活を引退し、体力の衰えを心配しましたが、団体種目を中心に72期生が躍動し、1・2年生に大差をつけて優勝することができて本当に嬉しかったです。3年間応援団をしてくれた9人をはじめ、支えてくれた皆に感謝です。ありがとうございました!





文化祭実行委員長 2年4組 本田 花音

「Seize the moment!! ~その瞬間をつかみとれ~」という三星祭スローガンのもと、無事大成功に終わった今年の文化祭でした。ご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。文化祭に向けて、夏頃から本格的に企画決めやオーディション、打ち合わせを行ってきました。私自身の未熟さもあり、実行委員の皆さんに支えてもらわなければ、私は実行委員長としての役目を全うできませんでした。彼らには感謝してもらえませんが、今年度は、ステージ・展示・バザーに加え、クイズ等、どれも素晴らしいものでした。皆さんに楽しんでいただけたならば実行委員長冥利に尽きます。

よりよいものを目指して、文化祭は毎年進化し続けていきます。これからも、そんな鹿屋高校文化祭をどうぞお楽しみに！



9月20日(金)・21日(土)



文化祭警備
2の1 永山さん 2の6 山田さん
2の5 感王寺さん 3の2 茂岡さん
校内警備
ありがとうございました！



進路座談会

「目からウロコ！ 進路について考えよう」に参加して

3-2 柿元 美千代, 3-5 福原 美佳

8月23日(金) 進路座談会「目からウロコ！進路について考えよう」が開催されました。今年には2名の卒業生、1名の保護者、進路講話として、(株)リクルートマーケティングパートナーズ まなび領域・高校統括部専任講師・藤井保久氏をお招きして「保護者が理解しておきたい進学のこと」の講話がありました。

講師の藤井様より

- 「保護者が理解しておきたい進学のこと」と題して
- 1 就職環境と社会で求められる力
 - 2 子どもに合った進学先選び
 - 3 進学にかかるお金について
 - 4 保護者と子どもとのコミュニケーション
- を中心とした内容でした。
進学先を選ぶ際のポイントとして、学部・学科・コースの内容について、学校での学び方やどんな力が身につくか、学校側が求める人材像、これらをしっかり確認すること。そして「保護者」から「自立支援者」となり「子どもの考えを尊重すること」が大事であると、話されました。



卒業生
Aさん

進路選択は、中2の授業「調べ学習」にて薬剤師に興味をわき、希望するようになった。先生や周りの意見ではなく興味のある、本当に行きたいところに決めて欲しい。「この大学に絶対に行く！」と強い信念を持つことで、模擬テストが悪い判定でも「よし！頑張ろう」と思うことができる。保護者の方へ、判定が悪くても応援してあげてください。受験以外の心配事を減らしてあげてください。そんな環境をつくってください。



保護者
Cさん

1年生時は、平日3時間、休日6時間、テスト前休日10時間、机に向かい、学習の定着化を図った。2・3年生時は質問に行き、先生方の笑顔に救われた。オープンキャンパスは1年生から行くと良い。親としては体調管理に気をつけ、勉強以外のことはフォローした。(移動手段、宿泊手配等)前期試験は不合格だったが、気持ちを切り替え、後期試験に臨み見事合格。部活と学業の両立を果たした。あきらめずに目標に向かって進んでほしい。



卒業生
Bさん

当初県内大学志望だったが、挑戦できる場へ行きたいと夏の三者面談で熊本大学受験を決めた。オープンキャンパスに行くことは必要。学校の宿題をしっかりとやる。訂正ノートを活用する。センター過去問などは早めに始める。本や新聞を読んで欲しい。小論文等は早めに添削してもらう。睡眠は大切。スマホは使わない。後悔しないくらい勉強して欲しい。親からは勉強しなさいとは言われず、「頑張っているから休めばいいんじゃない？大丈夫だが！」と声をかけてもらった。家は安心して落ち着ける場所だった。優しく温かく見守って欲しい。



進路指導部主任
大山先生

大学や専門学校の先生方と話す機会があり、「鹿屋高校の生徒は頑張っていますよ！」と高い評価をいつもいただきます。「この学校での学びは間違っていない」ということでしょう。大学入試がゴールではなくそのあとまで学ぶことが大切だということをも生徒にも伝えていきます。国公立大学に向けて前期・後期まで教師一丸となり指導している学校です。それは1・2年生の生徒の9割が、国公立大学進学を目指してこの学校に入学しているからです。第一志望の学校を目指して最後まで戦って欲しいです。保護者の方もご理解ください。そして3年の受験時に、第一志望を断念・妥協してしまうお子さんへ、どうか後押ししてあげてください。



編集後記

今年度第2号の広報誌が出来上がりました。発行に当たりまして、ご寄稿いただいた方々にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。今回は、センター試験が近づいていることもあり、1面にセンター試験出願式の記事を掲載しております。また、体育祭と文化祭の紹介を2ページに分けて載せております。記事がきっかけで、進路や学校のことについて興味を持っていただけたら幸いです。今後も広報部一丸となって、充実した内容の広報誌を作成していきたいと思っております。(広報部担当 上脇田)

行事予定
12月25日(水) 授業日
12月27日(金) 授業日
12月28日(土) 特別学習会(3年)
1月3日(金) 授業日(3年)
1月6日(月) 授業日(3年)
7日(火) 始業式・センター試験激励会
8日(水) 実力考査(1・2年)
8日(水) 土曜授業
9日(木) 進研模試(1年)
11日(土) 進研模試(2年)
18日(土) センター試験進研模試(2年)
18日(土) 生鮮芸術市場
19日(日) 朝課外開始(1・2年)
2月4日(火) 推薦入学者選抜
27日(月) 学年末考査
27日(月) 国公立前期日程試験
29日(土) 進研マーク模試(2年)
21日(金) スタサポ(1年)
25日(火) 卒業式
3月2日(月) 国公立中期日程試験
8日(日) 国公立後期日程試験
12日(木) 担当職員

広報部員
長崎(211)・早田(213)
高嶋(213)・福永(215)
徳永(112)・安水(112)
上脇田・神川・山口・有村